

しらぎ
白木遺跡(本発掘調査B)

所在地 丹羽郡大口町豊田
(北緯35度18分50秒 東経136度52分59秒)

調査理由 一般国道155号道路改良工事

調査期間 令和2年2月～3月

調査面積 370m²

担当者 樋上 昇・早野浩二



調査地点 (1/2.5万「小牧」)

調査の経過 発掘調査は道路改良工事(一般国道155号)に伴う事前調査として、一宮建設事務所道路整備課から愛知県教育委員会を通じた委託を受けて実施した。今年度の発掘調査は同年度6月の愛知県埋蔵文化財調査センターによる試掘調査の結果、国道155号沿いに遺跡が広がることが確認されたことを受けて実施したものである。

立地と環境 白木遺跡は五条川左岸の自然堤防上の縁辺に立地する古墳時代から平安時代の遺跡である。現況は畑地である。遺跡は圃場整備の際に遺物が発見されたことを契機として、昭和47年に緊急調査が実施され、古墳時代の竪穴建物2基、「人」と刻書された奈良時代の須恵器等が検出されている。遺跡の東には径約12mの円墳である白木古墳がある。

調査の概要 今年度の調査区は現五条川に向かって傾斜する地形に相当し、今回の発掘調査で遺跡の西端を確認した。調査区西半は褐色を基調とする包含層状の堆積が確認された。層中の土器は下層が古墳時代前期、上層が古墳時代後期から平安時代の土器を主体とする。

調査区東端は褐色を基調とする古墳時代前期の包含層が良好に残存する。包含層の上面においては、竈を敷設する奈良時代の竪穴建物等、古代の遺構が検出されている。出土遺物には土師器、須恵器、土錘、鉄製品等がある。黄褐色を基調とする基盤砂層上面においては古墳時代前期を主体とする溝、土坑等、多数の遺構が検出されている。(早野浩二)



遺構検出状況(古代)



調査区全景